

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-143521

(P2012-143521A)

(43) 公開日 平成24年8月2日(2012.8.2)

(51) Int.Cl.
A63B 53/04 (2006.01)F 1
A 6 3 B 53/04テーマコード (参考)
2 C 0 0 2

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2011-14561 (P2011-14561)
(22) 出願日 平成23年1月7日(2011.1.7)(71) 出願人 593007567
阿部 薫
茨城県水戸市堀町 1 1 2 1-2
(71) 出願人 599125559
阿部 能理満
茨城県水戸市堀町 1 1 2 1-2
(71) 出願人 599125548
阿部 益喜啓
茨城県水戸市堀町 1 1 2 1-2
(71) 出願人 511022948
阿部 由佳
茨城県水戸市城南 3-16-13-302
(72) 発明者 阿部 薫
茨城県水戸市城南 3-16-13-302

最終頁に続く

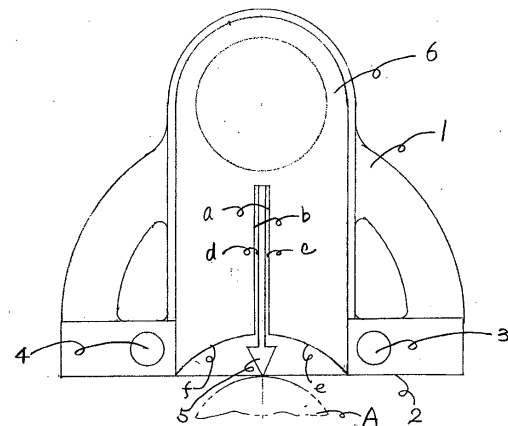
(54) 【発明の名称】 パター

(57) 【要約】

【課題】 従来のパターは、目標方向に合わすのに単に対象物を設けたりラインを引いたりで多くは感に頼っていたのである。構えても自分なりのものを信じてやむを得ず決断実行と言うものであって確信に至るものはなかったのである。

【解決手段】 目標方向により確信を以って合わせられるよう溝型方向部や突起型方向部を設け正しい見定める位置を導き出した構成にしたもので、構えて確信と安心をもたらしたものである。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

パターに方向線に沿う溝右側面・溝左側面・右スキマ・左スキマ・右球面・左球面とで構成する溝型方向部を設けたパター。

【請求項 2】

パターに方向線に沿う突起型方向右側面・突起型方向左側面・右球面 1・左球面 1 とで構成する突起型方向部を設けたパター。

【請求項 3】

パターに右用シャフト穴と左用シャフト穴を一緒に設けたパター。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】**【0001】**

本発明は、ゴルフのパターの進化を図ったパターに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来のパターには、方向性対策として 2 ボールパター等対象印を付けたりラインを引き方向性としていたものである。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

20

以上に述べた従来のパターでは、対象物やラインを設け方向性出そうとしましたが、安定したものが得られなかったのであった。

【0004】

本発明は、このような従来構成が有していた問題を解決しようとするものであり、方向性を定め易くし安定性を実現させることを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

そして、本発明は上記目的を達成するためにパターに方向線に沿う溝右側面・溝左側面・右スキマ・左スキマ・右球面・左球面とで構成する溝型方向部を設けたものである。

【0006】

30

また、第 2 の課題解決手段は、パターに方向線に沿う突起型方向右側面・突起型方向左側面・右球面 1・左球面 1 とで構成する突起型方向部を設けたものである。

そして、このパターは、これまで左用不足で不自由していた事を解決するために容易に左用に転用出来るようにもしたものである。

【発明の効果】**【0007】**

上述したように本発明のパターは、方向性が正しく見える構える位置をより安定的に得ることが出来、且つその判別が見易く安心感を与えられてプレー出来るパターを提供出来るものである。

【0008】

40

また、これまで対応不足であった左用にも容易に転用出来るようにもしたもので不自由であった事も解決させたものである。

【発明を実施するための最良の形態】**【0009】**

以下、本発明の実施の形態を図 1 ～ 図 9 に基づいて説明する。

【0010】

図 1 においての構成と動作を説明する。ボール A に対してソールする時、パター本体 1 を上から見て溝右側面 a と溝左側面 b とが同じ巾で見えそして右スキマ c と左スキマ d とが同じ巾で見え且つ右球面 e と左球面 f とが同じ巾で見えるようにして、ゴルフボール A の中心部にパター本体 1 とフェース 2 の中心部である方向線 5 の先端を目標方向に合わせ

50

てソールスイングするのである。これは、パターを真上から見られた事で目標に対して真っ直ぐに構えられた事なのであり、後はパターフェース 2 の面が目標方向に対して直角にスイング中どれだけ出来るかで、これまでより確かな目標方向設定と安心スイングが得られる効果があるのである。

【 0 0 1 1 】

また、図 4 においての構成と動作を説明する。ボール A に対してソールする時、パター本体 1 を上から見て突起型方向右側面 g と突起型方向左側面 h とが同じ巾で見え且つ右球面 1 i と左球面 1 j とが同じ巾で見えるようにして、ゴルフボール A の中心部にパター本体 1 とフェース 2 中心部である突起型方向線 8 の先端を目標方向に合わせてソールスイングするのである。これは、パターを真上から見られた事で目標に対して真っ直ぐに構え

10

【 0 0 1 2 】

また本発明は、これまでのパターでは右用と左用が別々に作られていて左用は全種揃っていない不自由や差別感を与えていた事を解決したのである。

【 0 0 1 3 】

そして、図 6 は図 1 の応用例で、図 8 は図 4 の応用例である。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

20

【図 1】 本発明の第 1 の実施形態を示すパターの平面図

【図 2】 同パターのフェース側図

【図 3】 同パターの側面図

【図 4】 本発明の第 2 の実施形態を示すパターの平面図

【図 5】 同パターのフェース側図

【図 6】 本発明の第 1 の実施形態の応用例平面図

【図 7】 同パターのフェース側図

【図 8】 本発明の第 2 の実施形態の応用例平面図

【図 9】 同パターのフェース側図

【符号の説明】

30

【 0 0 1 5 】

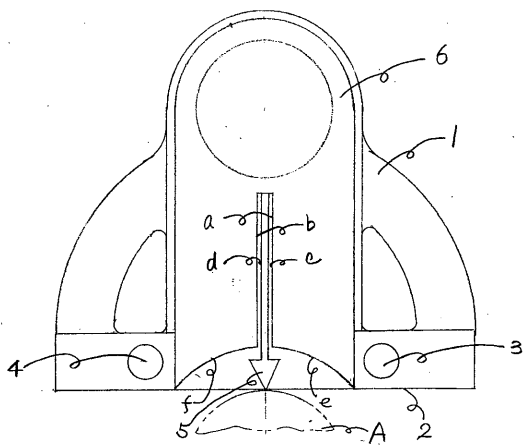
1	パター本体	a	溝右側面
2	フェース	b	溝左側面
3	右用シャフト	c	右スキマ
4	左用シャフト	d	左スキマ
5	方向線	e	右球面
6	溝型方向部	f	左球面
7	突起型方向部	g	突起型方向右側面
8	突起型方向線	h	突起型方向左側面
9	溝型方向部 1	i	突起型右球面
10	方向線 1	j	突起型左球面
11	突起型方向部 1	k	溝右側面 1
12	突起型方向 1	l	溝左側面 1
		m	右スキマ 1
		n	左スキマ 1
		o	右球面 1
		p	左球面 1
		q	突起型方向右側面 1
		r	突起型方向左側面 1
		s	突起型右球面 1

40

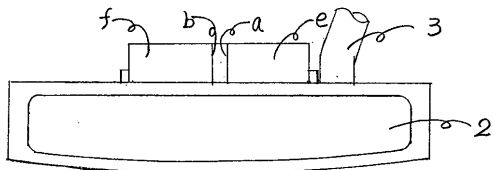
50

t 突起型左球面 1
A ゴルフボール

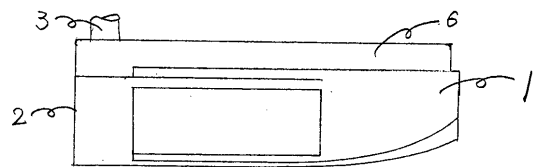
【図 1】



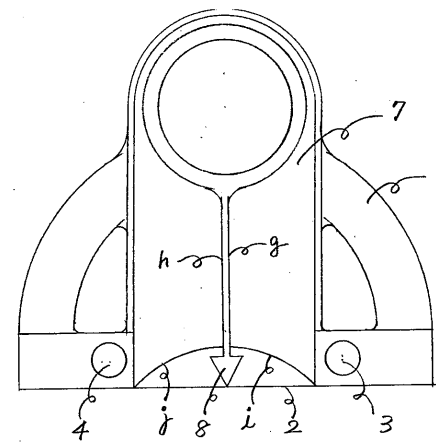
【図 2】



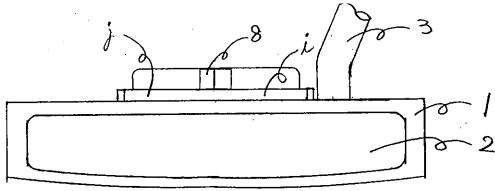
【図 3】



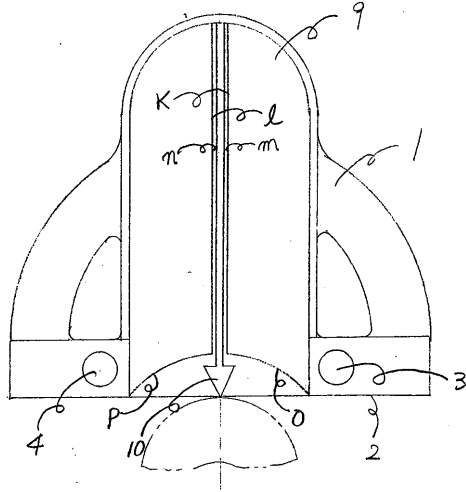
【図 4】



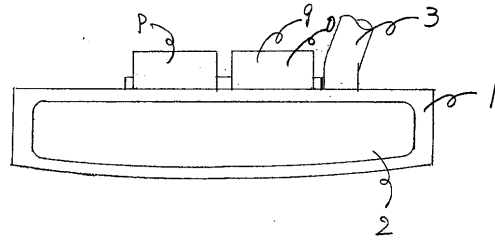
【図 5】



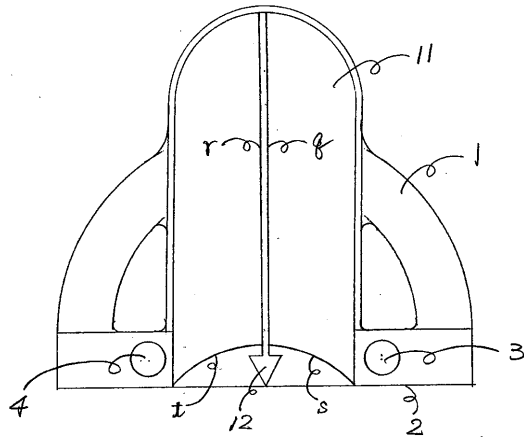
【図 6】



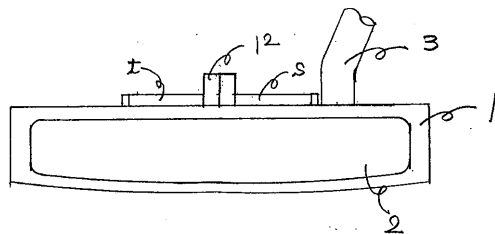
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

- (72)発明者 阿部 能理満
茨城県水戸市城南3 - 1 6 - 1 3 - 3 0 2
- (72)発明者 阿部 益喜啓
茨城県水戸市城南3 - 1 6 - 1 3 - 3 0 2
- (72)発明者 阿部 由佳
茨城県水戸市城南3 - 1 6 - 1 3 - 3 0 2
- F ターム(参考) 2C002 AA04 ZZ01